

『日々の高校生活のなかのさまざまな課題・問題』に対し、

『自ら考え、判断し、行動』し、



『課題解決』してみませんか？

おすすめメソッドとして

『OODA（ウーダ）ループ』をご紹介します！

『PDCA』は有名ですが、『OODA（ウーダ）ループ』というコトバを聞いたことがあるでしょうか？

実は私は、『OODA ループ』で『SPARK 事業を含む校長業務』や自分の『テニスの競技力向上』にも取り組んでいます！

『PDCA』は『計画』がうまく行かず、すぐに作り直すことになり、なかなかうまくいかない方法です。『OODA ループ』とは、

『①Observe（観る）→②Orient（わかる）→③Decide（決める）→④Act（動く）』というプロセスなので

①現状を観察し→②何をすべきか考え→③どう行動するかを決め→④実行する、というプロセスとなります！

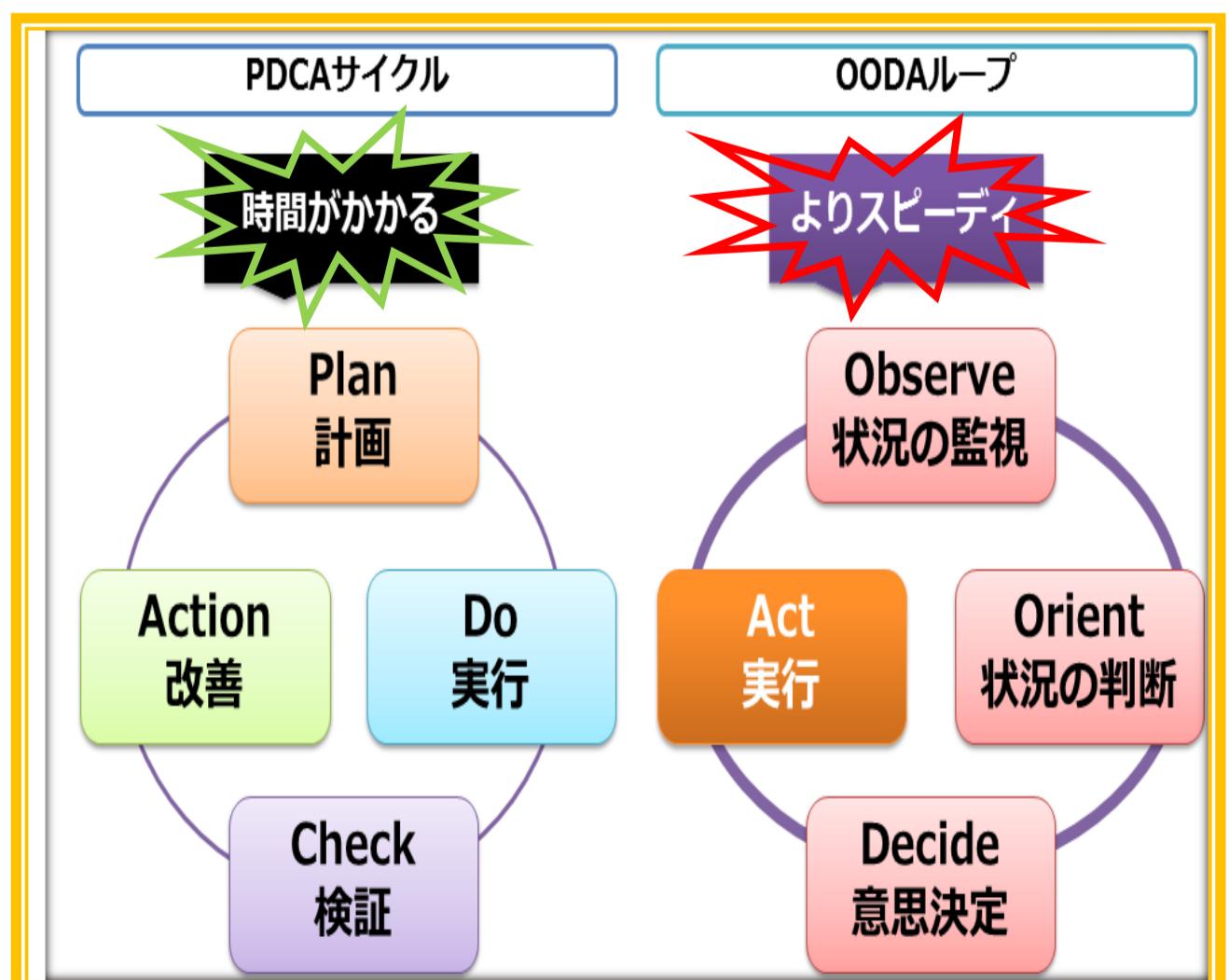
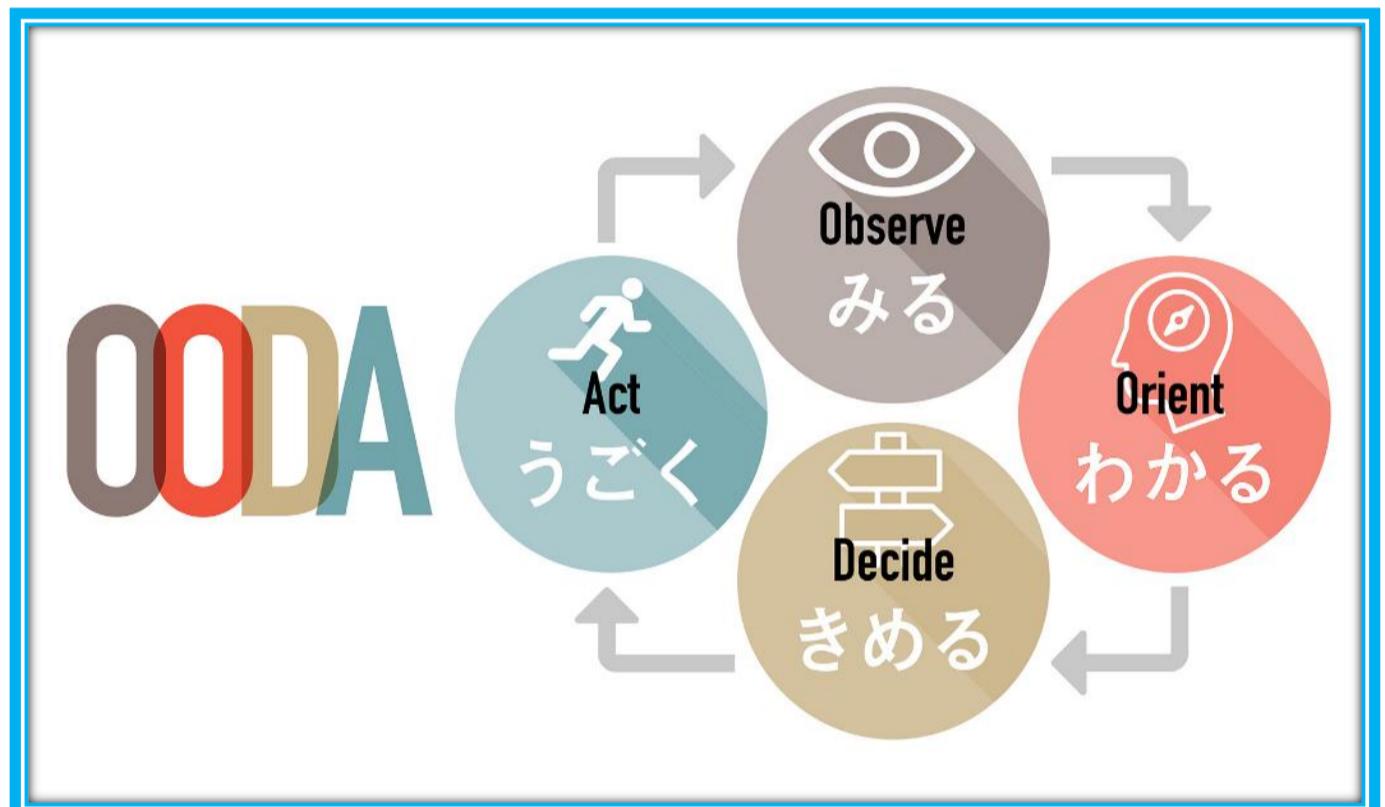
↓

Observe (事象や状況を観察する)

Orient (方向性を決めて戦略を練る)

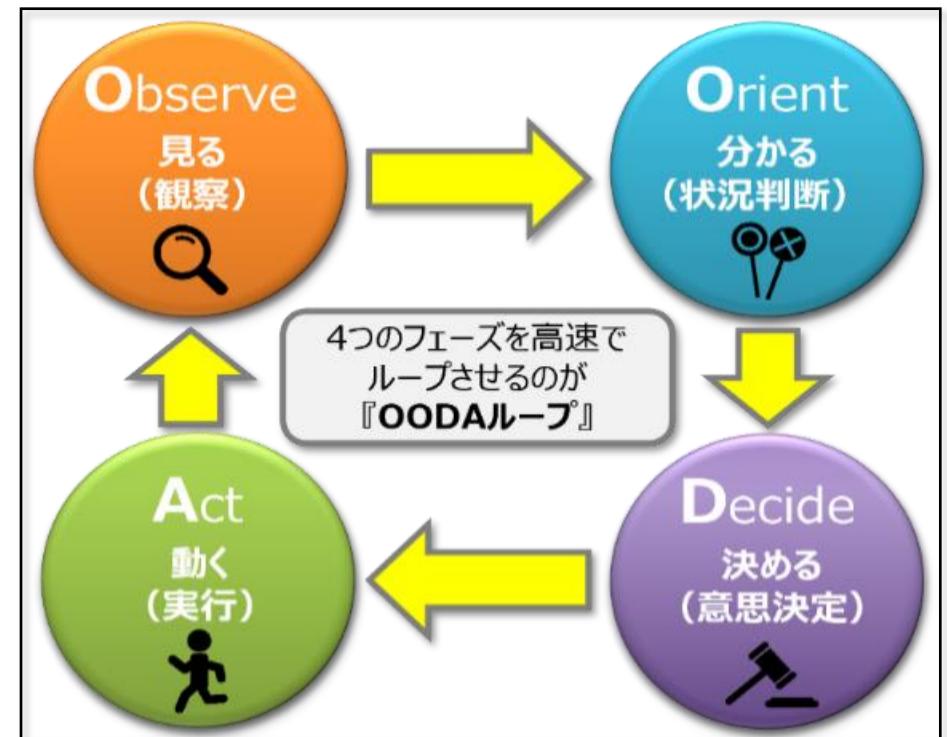
Decide (実行する施策を決定する)

Action (施策を実行する)



『OODA』は『Decide』の段階のいきなり第一手目で『すぐにできそうな最優先事項』に着手するので『即効性』が高いのです。第一手がうまくいかなければ、再び観察し、何が『次の優先事項』なのかを見極め、繰り返せばよいのです。

『PDCA』と比較すると、まずは『Plan』の時点で差が出ます。みなさんは自分で決めた『Plan』が計画通りに進むことがありますか?また、『Plan』の第一項目は、『目次の最初』や『基本事項』にしがちであり、それが『OODA』での『最優先事項』と同じであるはずがなく、多くの場合には、『最優先事項に到達する前に計画が破綻』することが多いのです。



また、部活動でも学習でも、観察すべきは、どんな『状況・課題・不得意分野・失点・欠点』がもっとも深刻なのか?です。そして、そのうちのどの分野を『最優先』にするかを決め、着手するのです!『もっとも深刻な』部分の対策をするので『失点・欠点』を減らすのみでも効果的があるはずです。そのつぎにまた『すぐに着手できそうな事項』を強化すればどんどん『成果』が出るはずです。もちろん、『完璧な解決』はなかなかできません。まずは『ある程度の改善』が得られたらいいのです。そして『次の優先事項は何か』を決め、『OODA』を繰り返せばよいのです。

特に『OODA』が優れているのは『常にその時のベスト』でいられる点です。なにごとも『完璧』などあり得ません。『完璧な投球』『完璧な走法』『完璧な演奏』など、実は本当の意味では『なかなか到達できない』ものがたくさん存在します。『完璧』なんて目指さなくてよいのです!

スマホの『OS (オペレーティングシステム)』がわかりやすい例です。Apple や Google がどんなに優れた企業でも、『完璧な OS』など製作不能なのです。だから、常に『その時点のベストな製品』を発出し、そのあとになって度々『アップデート』を繰り返し、修正し続けているではありませんか?それ故、いつでも『その時点ではベストな製品』なのです。そしてすぐに『その時点でもっとも修正した方がよい点のみを随時アップデート』しているわけです。

『OODA』は、『勉強』や『部活動』、『友人関係』にでも活用可能です!『成果』をすぐに感じることができ、『やる気』も生まれるため、持続させることができます!試してみませんか?(校長:星野 亨)

〈OODA が PDCA より優れている点〉

- ① PDCA は『計画 (Plan)』が前提だが、OODA は『観察 (Observe)』から即座に動けるため、状況が刻々と変わる現場に強い。時間をかけて計画をつくる必要がない。
- ② 先が読めない状況でも、『完結した計画』をつくらずに『暫定判断→行動→再観察』を回すことができる。
- ③ PDCA は『1 サイクル』が長くなりがちだが、OODA は『短いループ』を高速回転できる。
- ④ OODA は『現場の個人やチーム』が『当事者意識』をもち、『判断主体』で行動できる。
- ⑤ 『Check』を待たず、『Observe』の段階で違和感を察知し、すぐ『軌道修正』できる。また、小さく試し、すぐ修正するため、大きな失敗に発展しにくい。
- ⑥ PDCA は『計画どおりにやること』が目的化しやすいが、OODA は『常に状況を問い合わせ思考』を促す。
- ⑦ OODA は『人間の自然な意思決定 (見る→考える→決める→動く)』に近い。
- ⑧ OODA は元々は『軍事理論』であり、『相手の動きより速くループを回すこと』で主導権を握れる。